

百家琦行傳

一

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

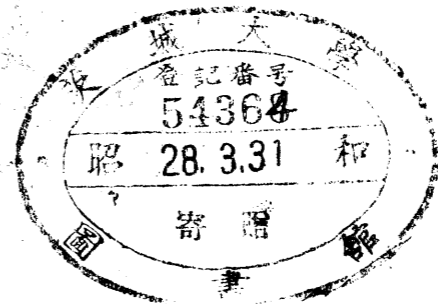
タイトル番号：0097

書名：百歌琦行傳

5冊

28/  
1

百家琦行傳叙  
 胡元瑞曰天地間古今來唯  
 聖人獨無病之人也矣知言  
 哉人各不能無一癖至大甚  
 者具數癖仁義道德之貴不  
 得中庸則偏偏則為癖至  
 精忠確義執信好學嗜禮樂



射御書數之文已甚者為善  
癖好酒好色好貨好鄭聲好  
便佞者為惡癖玩弄古器愛  
蒼井畜翎毛好探勝者得其  
宜為風流為騷逸不得其宜  
為七國為破家由其人有得  
失不可槩論予嘗有感此嚮

舉奇傳數人目為百癖談凡  
世間談資笑柄不癖不喜不  
笑頃日書賈某來訪談笑之  
餘及此事由探舊稿古麓中  
驅蠹魚以附之再考其名未  
雅馴更題百家琦行傳問于  
世亦以請張怪誕漫災未

黎一齋人耳

岳亭五岳述

天保六未中秋

百家琦行傳壹之卷目錄

○澤井智明

○笹岡市正

○天愚孔平

○芝山某

○祥榮和尚

○唐齋

○神田菴小智

○ 菅蒲皮馬肝

○ 外山成山

○ 島の勘十郎

○ 煙草屋吉兵衛

○ 帶吉兵衛

○ 大島屋彦兵衛

百家琦行傳壹仍卷

○ 澤井智明

八島五岳輯

洛東大和が路第三橋の南に大黒屋傳兵衛といふ者あり  
數代慈悲家よりて家殊に繁昌に別家數十家あり先祖々  
近江の高島より出て代々入夫ありといふども他郷よりむ  
へはつりも皆高島より養子に妻子代丁兒ふつるは  
同村の者ありてちかくは娘に往古這とらゆら繩子堤  
みて民屋一軒もつらざりて大黒屋傳兵衛といふ家と  
經營てより以來おひく人家建はるるおど公廳より大

黒町と名と賜ア〜とや三條より南二丁が間の大黒屋といふ  
 暖簾といふ多かるとりて大黒屋とも呼ばるり天明寛政のころ  
 と九代おおよぶ傳兵衛あり氏と澤井名と智明經學といふ  
 粟田流の書とよししやう道學といふかびて慈悲心ふくむつら  
 貧民と憐れ我が家と儉ともひ能他の人小物と施す文化年中  
 摂河兩國洪水の時も若子に金銀と授けりて窮民を救へ夏はひ  
 る〜亦年々極寒のころ夜ごと洛裡洛外と徘徊〜極貧の  
 者と看せて米錢と施すこと多年かつて姓名をかして他ふ語る  
 事か〜然とも隠るるより顯るるを〜とつら公廳不達して  
 忽ち宣はるる褒詞褒賞ともありりり亦三條より鴨川車道



より大津まで三里ありて往來旅客の多め不夜燈として車道敷石とおもひ起して當躬あはれ此黄白と投うち有徳の人々もくめで善根と施うめ二年ふして竟ふ其功と遂る當下も亦公廳より褒賞とほりぬ都て家より二三丁四方の小家も這大黒屋の恩ふづくづる者も稀ありしとぞ他家といへも傾廢ふおとんとほつと看ても是と歎てうづくづ求て其家ふはれ何呉と執するあひ再興とせしむる其才智ゆと賞しつべ公廳より褒賞ともまうり一夏五六度ふおとんと歌の中山清閑寺の智真老師は傳兵衛が賢ある事ときくあひ始て來まれいと見呼門もま直とぞわり大黒屋傳兵衛你何とぞ做ぞと問ふ傳兵衛當時帳

合とて居るうらゝ其や答ていゝ我のる大盤若經と轉讀い老師もゝゝ其功德怎麼傳兵衛くゝ毎日この大盤若と轉讀いゝがゆゑふ父母妻子奴僕まで飢寒とまゝは其わわわは貧民ともゝふ是れやの功德もと有べうゝ老師もことふ你が家業も質屋も我念佛と質ふとらんや傳兵衛答てむじの蓮生どれ荒法師の念佛も質ふ把する人もあり況て老師も道徳とらき大和尚念佛ありむ何程も質ふとらべとの老師大の笑せむい你も質ふ泥裡のともは俗家ふらんも最とらき夏ありと曰ひて夫より興へとわり互ふ禮とつりて是より無二の法友とあり味且のやゝらひ深かりたる傳兵衛五十九歳まで病死し葬すふ至

て野送の人十餘町ふかよび〜

○笹岡市正

市正ち生國越後村松の豪家あり氏ち笹岡名ち静字の希默幼  
年より京師ふ出て稲葉迂齋の門人となり泊斎と号し多く書讀  
後神道ふ帰依して神職とあり性魯鈍ふ似て無欲あり生平ふ人説ふ  
とんく世人四氣とさくは無事わん〜人其由縁と問む〜  
四氣といふも氣欲氣食氣勝氣あり人この四氣ふ去む生涯無事あり  
〜其躬のちあり最〜若〜一年市正が甥まで  
て市正ふ謂て曰く休つ〜四氣とさく〜  
今四氣と去てこの家督とさく〜譲〜市正〜

甥ふ家督とゆづ終の盤纏と懐裡はして江戸ふ出て赤坂東横町ふ  
住して神職と業〜清貧とあり〜人渠がさくこの餘体あると  
看う〜黄〜得事と全〜亦うの四氣と  
去事とひ出て天道〜人と殺人や扇あるもの着口ある者〜食  
一衣一口〜足あん那〜他と願んや〜竟ふ生涯貧〜  
〜生壽八十四歳〜終〜東武榛谷氏這笹岡とよ〜知〜

○天愚孔平

天愚も某候の藩裡して赤坂御門の御第舎ふ住し俗稱教野  
喜内名の信敏字の孔平別号天愚〜鳩谷とも〜博識〜  
て文章ふ秀世と玩弄〜節儉〜家〜富り〜敵衣



あつて  
あつて  
あつて

破るはと著し家ふ在とれら大轎のらちふ座して書見は右左  
 倚羅ところあり心散びて書と看みち大いふとあり亦往  
 來はつとれら晴雨ふかりらば雨羽織と著はつとらう戯れといふ  
 もと行羽織といふものありと亦路頭ふ人の脱すてらる古草履草  
 鞋あつて破らつとると自親ひらひ把て家ふかへと是と幾重ふとら  
 合せやと他ふ出ると是と足ふはつてらうと最異人あり途ふ  
 ともやうと軒鞋も拾ひて用らる斯のてう要あら我のせふ座る  
 ものと擧用る夏と好むありといひて彼とち著らる古草鞋と  
 きて往來は看人として笑どもつとらば狂人の如く思ふ人も  
 あつとらうと會て談話とらふ其論とらうと博識とらふ方もあ



壯年より四方の神社佛閣ふまうづると兒と管に堂塔と題名  
してかへる変とあは其筆硯のわづらうかゝれといふ後六印  
刺して天愚孔平と紙ふらうて是とほりて歩行あり奈何  
あまふ天愚と唱あふぞと問を我天性愚子生とて天愚  
とん呼ありと答たり這紙札のりもあふ古に堂社ふはく殘  
まり是と看真似して世の凡俗千社ありの札をりと云  
変流行もろくの神社佛閣と活あり者多し歎  
れ変ありか

○芝山某

芝山も武家うく牛込加賀屋敷に住は武備ふ嚴うて古人

の厩あり元來小祿ありといふも武具馬具のこひえーから  
び家居衣服かゝいといひ質責ふと唯武事ふのこ心  
がけ厚し常ふ騎射とよしと志はく褒賞をかうあぬ  
家のより一圓の原ふとて草おひ茂らる常ふ飼とられ馬を  
門前ふ放ち草と食しめりて飼艸ふあつ亦常ふ野菜塩  
あぶらのこひと買んとはらとれも慢りふ丁僕と使ひ自  
親馬ふのりて市街ふらうりやもくの品と買もら鞍は右  
ひらりふ結びつけく飯る看人あをを笑もいふははの  
素あり変賞はべし門の一邊ふ一圓の大棧あり門のこらう  
と這獲ふりて造らる獲成木さるふまごうひて門の冠木片